
EXECUTIVE PROPOSAL

Harvest

経営の知能を収穫し、自律進化する資産へ

YAY.inc

どれだけ種をまいても、実りが残らない 「痩せた土壌」になっていませんか？



知能の流出

開発のたびに知能がベンダーや退職者の頭の中に消え、自社には「ブラックボックス」だけが残る。



人月の呪縛

「人の時間」を買い続ける投資。効率化が進むほどベンダーの利益が減るとい、構造的な矛盾。



劣化する意図

経営者の想いが、重層的な組織と複雑な承認プロセスの間で薄まり、現場に届く頃には形骸化している。

結論：「システムは増えたが、中身を知る人はいない」という経営リスク。

Harvest

CONCEPT

知能を、 収穫せよ。

開発は「消費」ではない。

経営の意思を収穫し、永続的な「資産」に変える。

それが、Harvestの思想です。

知能の永続化

人が辞めても、ベンダーが変わっても、組織の知能が積み上がり続ける。

経営主権の奪還

ブラックボックス化したシステムを、経営者の手に取り戻す。

自律進化する組織

AIエージェントが、変化し続ける市場に即応する「光速の知能」となる。

経営者の「判断の型」とシステムの「設計思想」を宿した、 2つの自律知能（エージェント）。



Executive Shadow

経営者の優先順位やリスク許容度をモデル化。
あなたが不在でも、あなたの視点で現場を導く「分身」となります。

WHY IT WORKS

AI駆動型開発により、思考プロセスを直接データ化し、単なる検索ではない「振る舞いの複製」を可能にしているから。



Architect Agent

全構造と「なぜこの構造か」という意図を把握。
属人化を物理的に排除し、自律進化を支える「知能の根」となります。

WHY IT WORKS

AIが設計思想と実装を完全に同期させて保持するため、変更時も過去の意図に矛盾しない自律的な修正ができるから。

「仕様書を書く」時代は終わった。 これからはAIに「知能を蒸留する」。

BEFORE

従来の伝言ゲーム

人間が書き、人間が読む仕様書は、解釈のズレが不可避。数ヶ月の調整期間を経て、意図が劣化したシステムが完成する。

HARVEST PROCESS



AFTER

知能の蒸留

業務と開発の知恵をAIが直接統合。数ヶ月の調整を、数日の「現物確認」へと劇的に圧縮し、純度の高い知能を資産化する。

核心：AI駆動型開発は、「対話と即時生成」のループで情報の劣化を物理的に排除する。

AIが知能を耕す「耕運機」となることで、 情報の劣化をゼロにする。



設計の自動理解

AIが要件から実装までを一貫して司るため、人間による「**翻訳ミス**」が起きません。設計思想とコードが常に同期し、意図が正確に形になります。



高速な試作サイクル

従来の10倍のスピードで「現物」を生成。失敗を恐れず、何度も「**耕し直す**」ことが可能になり、理想の形に最短距離で到達します。



エージェントによる品質担保

AIが自らテストを行い、経営者の意図との乖離を24時間監視。**品質の「枯れ」**を防ぎ、常に最新かつ最適な状態を維持し続けます。

AI駆動型開発は、単なる効率化ではなく「**知能の純度**」を守るための技術です。

TECHNICAL PROOF

AIリテラシー教育は、社員を「作業」から「創造と決断」へ解放する。

🎓 教育の必然性：AIを操るには「操作」ではなく「知能のマネジメント」が必要。

フェーズ	従来の業務 (Before)	Harvest導入後の業務 (After)
要件・設計	複雑な仕様書を書き、整合性をチェックする「事務作業」	経営の想いを語り、知能を蒸留する「教育・対話」
開発・テスト	バグを探し、コードの修正に追われる「労働」	現物を確認し、経営判断とのズレを見極める「審美・決断」
運用・保守	障害対応や古いドキュメントの解読に奔走する「火消し」	AIと共に、次なる進化の形を描く「戦略立案」

問いを立てる

そもそも何を解決すべきか、という目的の設定。

共感する

顧客の感情を理解し、心に響くサービスを構想する。

責任を取る

不確実な未来に対し「これで行く」と決断する。

既存の仕組みを壊さず、横に「光速の知能」を築く。
季節を待つように、段階的な変革を。

01

知能の芽吹き

特定プロジェクトでの試験導入。
AI駆動型開発による「現物主義」の成功体験
を作り、組織の土壌を整える。

02

影武者の稼働

経営者の思考バックアップを開始。
影武者エージェントが意思決定のボトルネッ
クを解消し、組織の速度を上げる。

03

自律進化の森

全社的な自律運用への移行。
人間を管理から解放し、未来を描く戦略的な
議論ヘリソースを集中させる。

無理な組織改編は不要。新しい知能の森を育て、段階的に同期させる現実的なアプローチ。

2年後、取り残される企業と、 知能を積み上げ続ける企業の決定的な差。

比較項目	従来型開発（人月・受託）	Harvest（知能資産化）
資産性	作った瞬間から陳腐化する「負債」	使えば使うほど賢くなる「資産」
スピード	組織の慣性に縛られた「低速」	AIエージェントによる「光速」
継承	人の退職と共に失われる「断絶」	AIに蓄積され続ける「永続」
経営権	ベンダーに握られた「依存」	自社に知能を取り戻した「主権」

「人月」という負債を、「知能」という資産に変える。

2年後に生まれる圧倒的な競争優位性。

Harvest

あなたの思考を、組織のOSにインストールせよ。
未来を、あなたの手の中に収穫するために。

©2026 YAY.inc